

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

分担研究報告書

血球計数器および末梢血塗抹標本による Jordan 異常同定に関する研究

研究分担者 稲葉 亨 京都府公立大学法人京都府立医科大学 大学院医学研究科 准教授

研究要旨

原発性中性脂肪蓄積心筋血管症(TGCV)では末梢血塗抹標本で典型的な Jordan 異常を認めるが、自動血球計数器でも特徴的な好中球分布パターンを示すためスクリーニング可能なことを報告してきた。一方、特発性 TGCV では典型的 Jordan 異常を認めないことが多く、複数施設間での定期的クロスチェックや判断基準の統一が必要となる。このため、従来からのコンサルテーション対応システムを発展させて新たに血球解析委員会を立ち上げた。

A. 研究目的

特発性 TGCV 疑いでコンサルテーションを受けた症例において、血球計数器で好中球分布パターン異常を認めるかを検討する。

併せて末梢血塗抹標本での好中球空胞形成（非典型的 Jordan 異常）を的確にとらえる手段を検討する。

B. 研究方法

特発性 TGCV 疑いでコンサルテーションを受けた症例について、紹介元で実施された白血球自動分類のドットプロットを解析し特徴的パターンの有無を確認する。

また、末梢血塗抹標本で好中球の形態異常を各施設で定量し、その結果を血球解析委員会のメンバーでクロスチェックを行う。

（倫理面への配慮）

残余検体利用については当該患者に文書で説明・同意を得ている。また、得られた結果は連結可能匿名化状態で取り扱う。

C. 研究結果

1) コンサルテーション症例では、異型リンパ球を有する場合があります、Jordan 異常と中毒性空胞の鑑別が困難であった。

2) 小空胞を複数有する細胞については、非典型的 Jordan 異常と判定すべきか意見が分かれた。

D. 考察

現状では、特発性 TGCV 患者において自動血球計数器で得られる好中球分布パターンに明らかな異常はなく、血液塗抹標本で認め得る小空胞を再現性良く捉える必要があるが、この際に中毒性変化が混在する事例がある。従って、急性炎症を除外条件とする必要がある。また、微小な空胞を複数個含む好中球については施設間での判定結果が異なったため、血球解析委員会を通じてクロスチェックを行い、必要に応じて判定基準の見直しが必要となる。

E. 結論

特発性 TGCV 疑い症例の好中球形態観察は定常状態（炎症反応陰性）で実施する必要がある。また、数個の小空胞が存在する場合の判定基準を再検討する必要がある。

F. 健康危険情報

該当せず

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし